

## (2) 文化施設

下町風俗資料館	
指定管理者の名称	公益財団法人 台東区芸術文化財団
所管部課	文化産業観光部 文化振興課

### 評価委員会による評価

#### 1 評価の観点

「評価の観点」(1)～(4)における委員会の評価については、委員会の合議により決定した。

「委員のコメント」及び「評価委員会から区への意見」については、評価の過程における多様な意見を報告書に反映するため、各委員から出された様々な意見を記載している。

#### (1) 事業の運営

委員会の評価	S	(【参考】区の評価：S)
--------	---	--------------

#### 委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 企画展、特別展、季節展示、出前講座など、施設の目的に沿った事業を積極的に展開している。</li><li>○ 職員の配置は、ボランティアの活用も含め適切であり、入館者への対応に遺憾なきを期している。</li><li>○ ホームページは子ども向けの「キッズページ」もあり、とても充実している。入館者数の維持にも寄与していると考えられる。</li><li>○ 素晴らしい立地条件を生かし、誰もが気軽に立ち寄れる中で、下町文化に触れてもらいながら保存に努めている。</li><li>○ 多くの昔遊びを体験してもらうなど、入館者に楽しい時間を提供できていると感じる。</li><li>○ 積極的に外部でPR活動を行っていることは評価に値する。</li></ul>

改善すべき点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ ホームページ上で「売切れ」と表示されているミュージアムグッズについては、再販開始予定日を表示する必要がある。</li></ul>

### その他

- 自主事業やPR活動など評価できる取組みが行われているにも関わらず、以前の入館者の水準には戻っていない理由を検証する必要がある。

## (2) 施設の維持管理

委員会の評価

A

(【参考】区の評価：A)

### 委員のコメント

#### 良い点

- 小道具を含め整理・整頓がきちんとされており、展示品は見やすく配置されている。

#### 改善すべき点

- 展示品によっては説明書きを加えた方が、わかりやすく興味深く見てもらえるのではないかと思う箇所があり、工夫が必要と考える。

#### その他

- 限られたスペースであることから、展示における配置の苦勞が拝察される。
- 1階の長屋部分については、季節毎に展示を変更しているが、入館者からはわかりにくい。季節ごとの行事・催事風景を映像やパネルにより常時展示すれば、リピーターを増やすことにつながるものとする。

(3) 利用者の満足度

委員会の評価	S
--------	---

(【参考】区の評価：S)

委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 外国人を含む多くの入館者が楽しめ、リピート率も高い。ボランティアの活用、開館時間の延長等も含め、積極的かつ柔軟に対応し、サービス向上に努めている。年齢層を問わず楽しめる場所であることも良い。</li><li>○ 台東区ならではの特殊な資料館であるが、毎年 60,000 人程の入館者数達成は大変評価できる。</li></ul>

改善すべき点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 外国の方の利用が多いが、外国語での説明や案内が少ないと感じたので、さらなる充実を期待する。</li></ul>

(4) 収入支出

委員会の評価	A
--------	---

(【参考】区の評価：A)

委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 年度ごとの委託料や予算額に対する決算額の推移から、経費の削減効果が顕著に伺われ、適切に執行がなされている。</li><li>○ 展示品などには、寄贈品を受け入れている。</li></ul>

## 2 総合評価

総合評価は、7ページに示した基準に従い、「評価の観点」の結果に応じて評価を付した。

委員会の評価	<b>良好</b>	（【参考】区の評価：良好）
--------	-----------	---------------

### 委員のコメント

- 本施設の評価としては全般的に良好である。本施設の設置目的は、「台東区の特徴である下町文化の保存」であり、そのため、展示のテーマは「時代」のみではなく「台東区の時代」であると思われることから、更なる台東区の特徴ある展示物を期待する。
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、国内外からの入館者が今後さらに増加していくことが予想されるため、それらの多様なニーズに対応し、展示内容の工夫や密度の濃いサービスに努められることを期待する。
- 施設の設置目的である「下町文化の保存」については、その役割を十分に果たしていると思われる。しかし、「下町文化の育成」という面では少々物足りない感じがする。子ども達が下町文化に触れあえる機会を設けるため、学校に積極的に働きかけていくことも必要と考える。

## 3 評価委員会から区への意見

### 委員のコメント

- 本施設は、「東京の下町風俗」に焦点を当て、かつ時代も明治、大正、昭和の前半期に絞り、他の類似の資料館と差別化を図った専門資料館であり、区がこれを設置運営している意義は大きい。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、国内外からの入館者がさらに増加していくことが予想され、収入支出の項目の自由意見で述べたことも含め、それに応えるために所要の予算措置を講じていくことが望まれる。なお、前回の東京オリンピックを境に日本の社会風俗が大きく変貌したように、2020年のオリンピック・パラリンピック後も同様の変化が生じるのではないと思われる。その意味で、今後、本施設の時代範囲を平成にまで下げることが検討してみてもどうか。
- 入館案内や特徴ある展示物の紹介など館のPRについて、広報たいとうや区のホームページ、学校で紹介するなど、区として支援することを期待する。

区による評価

平成25年度 指定管理者施設管理評価シート		部	文化産業観光部	課	文化振興課	
施設名称	〔4〕 東京都台東区立下町風俗資料館					
指定管理者の名称	公益財団法人台東区芸術文化財団	指定期間	H22.4.1 ~ H27.3.31			
1. 指定管理者の概要						
(1)業務内容	芸術文化、区民文化、スポーツ文化に関する事業の実施 芸術・文化・スポーツ施設の管理運営					
(2)類似施設の管理実績	文化施設5箇所					
(3)経営状況	24年度決算 歳入 649,077,258円 歳出 572,606,613円 収支差額 76,470,645円 (区返納金56,470,645円次期繰越金 20,000,000円) 監査の結果、事業報告書、決算報告書、決算付属明細書並びに財産目録は適正であった(内部監査報告書より)					
2. 施設の概要						
(1)所在地	台東区上野公園2-1					
(2)設置目的	台東区の特長である下町文化の保存、育成、調査研究等を行い、区民文化の振興を図る。					
(3)利用者	区民ほか					
(4)開館日・時間	開館日：休館日(月曜日/年末年始/特別整理期間等)を除く 開館時間：午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)					
(5)規模	延べ床面積1,071.16㎡ RC造 地上3階地下1階建 搭屋 収蔵庫、荷解作業室、燻蒸室、更衣室、機械室、身障者用便所、展示室、休憩室、事務室、エントランスルーム、図書室、写真室、暗室、エレベータ機械室等					
(6)人員体制	14名 常勤固有職員(1)派遣職員(1)再任用(2)区政嘱託員(1) 研究員(2)財団嘱託員(1)特例嘱託員(6)					
3. 事業(サービス提供)の概要						
(1)委託事業	下町の歴史、芸術、風俗、産業等に関する実物、標本、模型、文献などの資料の収集、保管、及び展示。施設、付帯設備及び物品の保全・調整、施設内の清潔整頓、その他環境整備などの事業。施設使用料徴収などの事業。					
(2)自主事業	施設特別展・企画展、定期実演会(紙芝居、印章彫刻、染色工芸、江戸風鈴、看板彫刻、こども土曜塾)、紙芝居大会、伝統工芸実演会、正月実演会(大黒舞、獅子舞、南京玉すだれ、江戸風制作)					
4. 予算決算の推移						
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
予算	委託料	20,485,000	19,258,000	19,719,000	18,814,000	17,251,000
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	20,485,000	19,258,000	19,719,000	18,814,000	17,251,000
決算	委託料	18,136,914	17,869,853	16,806,045	16,920,682	15,845,405
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	18,136,914	17,869,853	16,806,045	16,920,682	15,845,405
	収支	0	0	0	0	0
5. 施設の稼働状況等(活動指標)						
指標名称		単位	21年度	22年度	23年度	24年度
開館日数		日	301	302	304	302
6. 成果指標						
指標名称		単位	目標値 (26年度)	22年度	23年度	24年度
入館者数		人	62,000	67,079	59,399	59,095



評価委員会による評価

1 評価の観点

「評価の観点」(1)～(4)における委員会の評価については、委員会の合議により決定した。

「委員のコメント」及び「評価委員会から区への意見」については、評価の過程における多様な意見を報告書に反映するため、各委員から出された様々な意見を記載している。

(1) 事業の運営

委員会の評価	A	（【参考】区の評価：A）
--------	---	--------------

委員のコメント

良い点
○ 職員配置等が適切になされており、施設の設置目的に沿った事業を積極的に展開している。
○ 地元の熱意により設置された経緯もあり、ボランティアによる協力が、運営面において効果を発揮している。
○ 一葉の住まいを時系列に展示するなど、分かりやすい展示に努めている。
○ 定期的にイベントや講演会を開催し、入館者数の増加に向けて努力している。
○ 自主事業として、様々な取組みが行われているのは、評価できる。

改善すべき点
○ 入館者数の増加に向けて、特別展や企画展、各種講座の更なる周知や広報の方法を工夫してもらいたい。

## (2) 施設の維持管理

委員会の評価	A
--------	---

(【参考】区の評価：A)

### 委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 施設が新しくなってから7年経過しているが、設備や備品も含め、施設の維持管理が適切に行われている。</li><li>○ 館内の整理・整頓や清掃が行き届き、清潔感が感じられ、展示品保護のため、照度にも配慮がなされている。</li><li>○ バリアフリー化がなされ、各所に休憩場所もあり、ゆったりと見学が出来る環境である。</li><li>○ 地域の行事と連携が図られており、地域に根差した施設となっている。</li></ul>

改善すべき点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ グッズコーナーが見えにくく、場所が分かりにくかったため、案内表示の方法などについて検討してもらいたい。</li></ul>

その他
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 新たに見つかった資料の収集は、その都度、予算措置を講じて購入を図る体制をとっており、適切である。</li></ul>

## (3) 利用者の満足度

委員会の評価	B
--------	---

(【参考】区の評価：B)

### 委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 文学館の中のさらに専門館ということもあり、目的を持って訪れた入館者は、展示内容等について、一定の満足感が得られているものと考えられる。</li><li>○ ボランティアガイドを導入することにより、展示作品がより理解しやすくなっている。</li></ul>



### 改善すべき点

- 24年度の入場者数が目標達成値を下回る結果となっており、今後この点の改善が望まれる。
- 樋口一葉が五千円紙幣に採用されてから、一時は入館者数が増加したものの、その後、維持できていない点について、しっかりと検証する必要がある。
- アンケートにより、希望の声が多数寄せられている。入館者の立場に立った事業展開について検討する必要がある。また、アンケートの項目は入館者の意見を反映できるような項目にしてほしい。

### その他

- 樋口一葉に関する一般的及び学術的な関心の度合いを把握し、一般向けには、全国の文学館ネットワークの中で専門館としてのアピールを行い、また、研究者向けには、大学の文学部に対して何らかの働きかけを行うことを検討してもらいたい。

#### (4) 収入支出

委員会の評価	A	(【参考】区の評価：A)
--------	---	--------------

#### 委員のコメント

##### 良い点

- 年度ごとの委託料や予算額に対する決算額の推移から、経費の削減効果が顕著にうかがわれ、適切に執行がなされている。

##### 改善すべき点

- 様々なミュージアムグッズを取扱っているが、販売促進の取組みが十分でないと感じた。収支改善の面からも、積極的に取り組む必要がある。

## 2 総合評価

総合評価は、7ページに示した基準に従い、「評価の観点」の結果に応じて評価を付した。

委員会の評価	<b>要努力</b>	（【参考】区の評価：要努力）
--------	------------	----------------

### 委員のコメント

- 施設運営については、適切かつ相応の努力をしていることが認められる。入館者数の目標値と実績との乖離については、専門館として、適切な目標設定がなされていたかどうかも含め検討し、改善に努めることが望まれる。
- 入館者数の減少に対して、その対応策としてアンケート結果をデータベース化し、活用することが必要だと考える。アンケート結果を分析することで入館者の興味を把握し、展示物や企画展の検討につなげていく必要がある。
- 区立施設として、教育機関に、より利用されることが望まれる。
- 地元の強い熱意により設置された経緯があるため、より積極的に一葉記念館協賛会との関わりを持ち、入館者数の増加を目指されたい。

## 3 評価委員会から区への意見

### 委員のコメント

- 博物館や資料館が収集・保管する資料には、有形無形の資産価値がある。その点において、近代文学作家の中に屹立する樋口一葉の記念館は、区にとって大きな財産となるものである。
- 入館者数の目標値については、専門館の特殊性を踏まえ、適切に設定することが必要である。
- 交通アクセスに難があるため、表示を工夫するなど検討してほしい。
- 施設独自の事業の一層の充実に取り組んでもらいたい。

区による評価

平成25年度 指定管理者施設管理評価シート		部	文化産業観光部	課	文化振興課	
施設名称	〔5〕 東京都台東区立一葉記念館					
指定管理者の名称	公益財団法人台東区芸術文化財団	指定期間	H22.4.1 ~ H27.3.31			
1. 指定管理者の概要						
(1)業務内容	芸術文化、区民文化、スポーツ文化に関する事業の実施 芸術・文化・スポーツ施設の管理運営					
(2)類似施設の管理実績	文化施設5箇所					
(3)経営状況	24年度決算 歳入 649,077,258円 歳出 572,606,613円 収支差額 76,470,645円 (区返納金56,470,645円次期繰越金20,000,000円) 監査の結果、事業報告書、決算報告書、決算付属明細書並びに財産目録は適正であった(内部監査報告書より)					
2. 施設の概要						
(1)所在地	台東区竜泉3-18-4					
(2)設置目的	樋口一葉は、竜泉寺町に住み、その体験を元に『たけくらべ』を執筆するなど、台東区にゆかりが深い作家である。その一葉に関する資料及び明治期の資料を展示公開することにより、区民文化の発展向上を図る。					
(3)利用者	区民ほか					
(4)開館日・時間	開館日：休館日(月曜日/12月29日~1月3日/特別整理期間等)を除く 開館時間：午前9時~午後4時30分(入館は午後4時まで)					
(5)規模	延べ床面積861.04㎡ 鉄筋コンクリート造地上3階地下1階、塔屋、展示室、収蔵庫、学芸研究室、展示準備室、事務室、エントランスギャラリー、倉庫、研修室、小会議室					
(6)人員体制	6名 常勤固有職員(1)派遣職員(1)再雇用(1)専門員(1) 財団嘱託員(1) 特例嘱託員(1)					
3. 事業(サービス提供)の概要						
(1)委託事業	樋口一葉に関する資料を展示公開、施設の利用に関する事業。施設、付帯設備及び物品の保全・調整、施設内の清潔整頓・その他環境整備などの事業。施設使用料徴収などの事業。文化ボランティアガイド事業。					
(2)自主事業	施設特別展・企画展(樋口一葉140年記念)、一葉生誕140年記念講演、一葉祭(記念講演・朗読、ボランティアと行く「たけくらべ」ゆかりの地めぐり)、特別講座 ワークショップ、朗読サロン、文学講座、くずし字解読講座					
4. 予算決算の推移						
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
予算	委託料	26,460,000	24,132,000	19,684,000	19,014,000	17,896,000
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	26,460,000	24,132,000	19,684,000	19,014,000	17,896,000
決算	委託料	18,132,017	16,286,787	12,614,691	14,331,580	15,957,861
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	18,132,017	16,286,787	12,614,691	14,331,580	15,957,861
	収支	0	0	0	0	0
5. 施設の稼働状況等(活動指標)						
指標名称		単位	21年度	22年度	23年度	24年度
開館日数		日	297	300	304	301
6. 成果指標						
指標名称		単位	目標値 (26年度)	22年度	23年度	24年度
入館者数		人	18,000	21,041	19,048	13,749

7. 平成24年度評価結果に対する現在までの取組み					
樋口一葉生誕140年記念企画として、一葉研究者の第一人者による記念講演や朗読と楽曲で構成するコンサートの開催など、魅力ある企画を展開した。また25年度にはすでにミニ企画展を3回開催しており、館のホームページはもとより、区のホームページのトップページに掲載するなど積極的なPRに努めている。					
8. 評価項目		3: 協定等の水準を上回っている。 2: 協定等の水準どおりである。 1: おおむね協定等の水準だが課題がある。	0: 協定等の水準を下回っている。 -: 評価対象外項目。		
評価の観点	評価項目				
(1)事業の運営 平均 [2.0]	(a)施設の目的達成 (b)サービス水準 (c)職員配置 (d)職員研修 (e)案内・接遇	[2] [2] [2] [2] [2]	(f)開館時間等の遵守 (g)自主事業の成果 (h)個人情報保護 (i)緊急時対応 (j)警備・防犯体制	[2] [2] [2] [2] [2]	
(2)施設の維持管理 平均 [2.1]	(a)建物保守・設備機器点検 (b)備品の管理 (c)清掃・衛生管理 (d)施設の修繕	[2] [2] [2] [2]	(e)危険箇所等の確認 (f)管理記録の作成・保存 (g)業務委託の事前承認 (h)省エネ・省資源・環境配慮	[2] [2] [2] [3]	
(3)利用者の満足度 平均 [2.0]	(a)利用者・第三者機関の評価 (b)苦情・要望への対応と報告 (c)利用者数の目標達成	[2] [2] [1]	(d)利用しやすい環境整備 (e)関係団体・地域との関わり	[2] [3]	
(4)収入支出 平均 [2.0]	(a)適正な予算執行 (b)経費縮減のための取組み	[2] [2]	(c)収支計画の達成 (d)利用料等の徴収・管理	[2] [2]	
9. 評価		S (水準以上) : 協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。 A (適正) : 協定等の水準を満たす管理が行われている。 B (一部課題あり) : 協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。 C (課題あり) : 協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。 D (水準未滿) : 協定等の水準を満たしていない。			
評価の観点	評価	説明			
(1)事業の運営	A	貴重な資料の保護に努めながらも、一葉生誕140年記念した様々な特別展等を行った。また、一葉作品の朗読と合わせたコンサートを行うなど新しい切り口での朗読サロンを実施し、積極的な事業を展開している。			
(2)施設の維持管理	A	備品及び物品の管理は適切になされている。また、西日対策としての「よしず」の設置など、経費節減とともに環境に配慮した施設の維持管理に努めている。			
(3)利用者の満足度	B	ボランティアによる館内案内や地元町会と連携した一葉祭でのゆかりの地めぐりなどは大変好評である。また感想ノートの設置など来館者の声の把握・反映に努めた。生誕140周年企画など積極的な事業を展開したが入館者の増には至らなかった。			
(4)収入支出	A	予算については概ね適切に執行されている。			
10. 総合評価		良好 妥当 要努力 要改善 不適			
		<b>要努力</b>	地元町会や文化ボランティアとの連携した企画展や新しい切り口での朗読サロンなど積極的な事業を展開しているが、入館者数が減少傾向にあるため、入館者数の増加に向け、今後も一層の努力が必要である。		
11. 平成25年度評価結果に対する今後の対応					
すでに実施しているミニ企画展や一葉祭における「たけくらべ」直筆原稿の特別展示など、魅力ある展示企画を行うとともに、今後も積極的なPRに力を入れ、入館者の増を目指していく。					

書道博物館  
 指定管理者の名称 公益財団法人 台東区芸術文化財団  
 所管部課 文化産業観光部 文化振興課

## 評価委員会による評価

### 1 評価の観点

「評価の観点」(1)～(4)における委員会の評価については、委員会の合議により決定した。

「委員のコメント」及び「評価委員会から区への意見」については、評価の過程における多様な意見を報告書に反映するため、各委員から出された様々な意見を記載している。

#### (1) 事業の運営

委員会の評価	S	（【参考】区の評価：S）
--------	---	--------------

#### 委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設の目的に沿った事業を積極的に展開している。</li> <li>○ 職員の配置等は適切であり、また、収蔵品は学術資料が主体である中でよく工夫を凝らし、東京国立博物館等との連携、学芸員実習の受入れ、中学生の職場体験等のほか、出前講座、館内での普及事業の推進にも努めている</li> <li>○ 定期的な特別展開催の企画力や実施の努力は大変評価できる。</li> <li>○ 貴重な資料を有する「博物館」を、積極的にPRして入館者増につなげている。音声ガイドの導入は、作品を理解するうえで役立っている。</li> </ul>

その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設を実際に見学することで、貴重な収蔵品があることを理解出来る。それを多くの人に知ってもらうため、たくさんの出前講座を行ってほしい。</li> </ul>

(2) 施設の維持管理

委員会の評価	A
--------	---

(【参考】区の評価：A)

委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 平成23年7月に発見された中村不折の「お蔵」の移築を含め、施設の整備に努め、適切な管理運営が行われている。</li><li>○ 整理・整頓はきちんとされており、資料や展示品についても丁寧に取り扱っている印象を受けた。</li></ul>

改善すべき点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 展示物保護のため、館内の照明が全般的に暗く、展示物の文字が読みにくかった。高齢者や児童が怪我をしないよう安全管理にも十分配慮をしてもらいたい。</li><li>○ バリアフリー化が難しい建物だが、将来的に検討してもらいたい。</li></ul>

### (3) 利用者の満足度

委員会の評価	S
--------	---

(【参考】区の評価：S)

#### 委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 学術的な資料による専門的な企画展示により、多くのリピーターの存在があり、また、工夫を凝らした普及活動によって一般及び学生・生徒等来場者の満足度も高い。</li><li>○ リピーターも多く、一度訪れるとその重要性や素晴らしさが理解できる。</li><li>○ 書道博物館という専門的な博物館だが、毎年 15,000 人程の入館者数を維持している事に対する努力は大変評価できる。</li></ul>

改善すべき点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ アンケート用紙は項目番号が間違っていたり、来館日欄が設けられていないなどの不備があり、アンケートの意見が事業運営に反映されているのか心配である。</li><li>○ 施設の更なるPRの必要性を感じる。区に貴重な文化財があることを子どもたちに知ってもらうため、特に学校関係には積極的に出向いてPRしていてもらいたい。</li></ul>

### (4) 収入支出

委員会の評価	A
--------	---

(【参考】区の評価：A)

#### 委員のコメント

良い点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 委託料の年度ごとの縮減、予算に対する決算における縮減の効果が顕著に見られ、適切に執行が行われている。</li><li>○ 資料の整理に国の補助金を利用してきたことは評価に値する。</li></ul>

その他
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 資料の管理や修復費用は国の補助金を活用するなど十分検討し、経費削減につなげてほしい。</li></ul>

## 2 総合評価

総合評価は、7ページに示した基準に従い、「評価の観点」の結果に応じて評価を付した。

委員会の評価	<b>良好</b>	（【参考】区の評価：良好）
--------	-----------	---------------

### 委員のコメント

- 外部資金の導入や大学等との連携により資料の整理を図ってきたことは、学術機関としての存在意義が外部から認識されていることを示すものであり、この姿勢を今後とも堅持していくことが望まれる。
- 入館者を増やすという課題に対して、アンケート結果のデータベース化とシステムの構築は有効だと考える。
- 学芸員の実習や中学生の職場体験の受け入れと、積極的に地域との連携を図っている点は評価できる。

## 3 評価委員会から区への意見

### 委員のコメント

- 博物館や資料館が収集保管する資料には、有形、無形の資産価値がある。書道博物館は、書に関する貴重な学術資料や重要美術品を擁し、区にとって大きな財産となるものである。それはまた、本施設が専門館として特有な価値を有することにもつながっている。学術資料としての価値に誘引された専門家の再々の来館のほか、普及活動による一般、学生・生徒の来館も見られるなど、本施設は全国区的な位置付けとなっている。従って、今後も本施設の機能が十分に発揮できるよう、適正な予算措置を講じていくことが望まれる。
- 専門的な博物館なので新規顧客の増加は困難が伴うが、固定ファンが多数存在していると考えられるので、リピーター戦略が大切に思われる。
- 中村不折が書いた「中村屋」・「真澄」・「神州一味噌」などの商品表記を使用している各社との連携戦略も資金調達や本施設のPRに効果が期待できるのではないか。
- 初めて来館するには場所がわかりにくいと、アンケートの意見にあった。どのように誘導するか検討し、看板等の設置など改善してもらいたい。



## 区による評価

平成25年度 指定管理者施設管理評価シート		部	文化産業観光部	課	文化振興課	
施設名称	〔8〕 東京都台東区立書道博物館					
指定管理者の名称	公益財団法人台東区芸術文化財団	指定期間	H22.4.1 ~ H27.3.31			
1. 指定管理者の概要						
(1)業務内容	芸術文化、区民文化、スポーツ文化に関する事業の実施 芸術・文化・スポーツ施設の管理運営					
(2)類似施設の管理実績	文化施設5箇所					
(3)経営状況	24年度決算 歳入 649,077,258円 歳出 572,606,613円 収支差額 76,470,645円 (区返納金56,470,645円次期繰越金20,000,000円) 監査の結果、事業報告書、決算報告書、決算付属明細書並びに財産目録は適正であった(内部監査報告書より)					
2. 施設の概要						
(1)所在地	台東区根岸2-10-4					
(2)設置目的	洋画家でもあり書家でもあった中村不折が開設した書道博物館は、開館以来60年にわたり中村家が運営してきたが、平成7年に区が寄贈を受けた。不折の作品及び書道に関する収集品を広く一般に展示公開し、区民文化の振興を図る。					
(3)利用者	区民ほか					
(4)開館日・時間	開館日：休館日(月曜日/12月29日~1月3日/特別整理期間等)を除く 開館時間：午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時まで)					
(5)規模	延べ床面積 1,032.38㎡(蔵)16.52㎡ RC造 平屋建(本館)247.93㎡ RC造 2階建て 第1~5展示室(中村不折記念館)764.83㎡ RC造 3階建て エントランスルーム、展示フロアー、特別展示室、中村不折記念館、会議室、事務室等					
(6)人員体制	9名 常勤固有職員(1)派遣職員(1)再雇用(1)財団嘱託員(1) 研究員(2)専門員(3)					
3. 事業(サービス提供)の概要						
(1)委託事業	博物館資料の保管及び展示、博物館資料に関する調査及び研究などの事業 施設・付帯設備及び物品の保全・調整、施設内の清潔整頓、その他環境整備等の事業。施設使用料徴収などの事業。					
(2)自主事業	特別展、企画展					
4. 予算決算の推移						
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
予算	委託料	45,768,000	44,484,000	42,285,000	32,906,000	30,152,000
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	45,768,000	44,484,000	42,285,000	32,906,000	30,152,000
決算	委託料	42,640,952	41,288,359	41,048,569	32,335,170	28,325,400
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	42,640,952	41,288,359	41,048,569	32,335,170	28,325,400
	収支	0	0	0	0	0
5. 施設の稼働状況等(活動指標)						
指標名称		単位	21年度	22年度	23年度	24年度
開館日数		日	283	282	281	274
6. 成果指標						
指標名称		単位	目標値 (26年度)	22年度	23年度	24年度
入館者数		人	15,500	16,241	14,695	14,955

7. 平成24年度評価結果に対する現在までの取組み

特別展に加え企画展の充実やPRの強化を行なった結果、入館者の増に繋がった。また東京国立博物館への作品貸出や同一テーマでの特別展の開催など魅力ある展示・特別展を行った。

8. 評価項目  
 3: 協定等の水準を上回っている。 0: 協定等の水準を下回っている。  
 2: 協定等の水準どおりである。 -: 評価対象外項目。  
 1: おおむね協定等の水準だが課題がある。

評価の観点	評価項目			
(1)事業の運営 平均 [2.2]	(a)施設の目的達成	[3]	(f)開館時間等の遵守	[2]
	(b)サービス水準	[2]	(g)自主事業の成果	[3]
	(c)職員配置	[2]	(h)個人情報保護	[2]
	(d)職員研修	[2]	(i)緊急時対応	[2]
	(e)案内・接遇	[2]	(j)警備・防犯体制	[2]
(2)施設の維持管理 平均 [2.0]	(a)建物保守・設備機器点検	[2]	(e)危険箇所等の確認	[2]
	(b)備品の管理	[2]	(f)管理記録の作成・保存	[2]
	(c)清掃・衛生管理	[2]	(g)業務委託の事前承認	[2]
	(d)施設の修繕	[2]	(h)省エネ・省資源・環境配慮	[2]
(3)利用者の満足度 平均 [2.4]	(a)利用者・第三者機関の評価	[3]	(d)利用しやすい環境整備	[2]
	(b)苦情・要望への対応と報告	[2]	(e)関係団体・地域との関わり	[3]
	(c)利用者数の目標達成	[2]		
(4)収入支出 平均 [2.0]	(a)適正な予算執行	[2]	(c)収支計画の達成	[2]
	(b)経費縮減のための取組み	[2]	(d)利用料等の徴収・管理	[2]

9. 評価  
 S (水準以上) : 協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。  
 A (適正) : 協定等の水準を満たす管理が行われている。  
 B (一部課題あり) : 協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。  
 C (課題あり) : 協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。  
 D (水準未達) : 協定等の水準を満たしていない。

評価の観点	評価	説明
(1)事業の運営	S	東京国立博物館への作品貸出や同一テーマでの特別展を開催するなど、貴重な資料を多数保有する館の利点を活かした事業を展開し、入館者の増に繋がった。
(2)施設の維持管理	A	経費を最小限に抑えながら、貴重な資料の保存・保護のために区と連絡をとりつつ、環境保全や計画的な修理を進めている。また施設の整備等についても適切な管理運営が行われている。
(3)利用者の満足度	S	貴重な資料を活かした企画展示を行っており、リピーターも多い。また、学芸員による展示解説や関係団体との連携事業における相互割引の実施など利用者サービスの向上に努めており、特別展・企画展ごとのアンケートでも高い評価を得ている。
(4)収入支出	A	予算については効率的な運営に努めており、適切に執行されている。

10. 総合評価 良好 妥当 要努力 要改善 不適

<b>良好</b>	入館者サービスの向上や貴重な資料を多数保有する館の利点を活かした事業を展開するなど、積極的な取り組みが入館者増に繋がった。
-----------	---------------------------------------------------------------

11. 平成25年度評価結果に対する今後の対応

貴重な資料の管理のために計画的な環境保全や修復を進めるとともに、今後も東京国立博物館をはじめ、他の区立文化施設とも連携を図りながら、魅力ある企画展示を積極的に行っていく。